

# 春休み ワクワク 淡路島発見キャンプ。

2013年 3月28日(木)~4月1日(月)



福島ハーメルン・プロジェクト  
ジョイントチーム



3月28日(木)~4月1日(月)

文/熊 和子

□3月28日(木)

- ・9時15分、福島空港を2家族6人が出発。
- ・10時、予定より30分早く伊丹空港到着。半年ぶりの再会。リムジンバスで新大阪へ移動。予約していたクリニックで、西宮に避難している親子3人と合流。DNAの損傷を調べる尿検査と、甲状腺のエコー検査を受ける。
- ・皆で昼食のあと、西宮の家族とはいったん別れ、一行はJR、船を乗り継いで一路淡路島へ。
- ・15時半、今回のキャンプ会場のログハウスに到着。
- ・夕食までの時間を利用して、キャンプ参加者は、明石海峡大橋を望む温泉「帆の郷」で、長旅の疲れを癒す。
- ・18時、「たこ焼き＆お好み焼き」パーティー開始。子どもたちは、上手にたこ焼きを作りました！

□3月29日(金)

- ・10時、西宮の親子3人が合流。夏キャンプで会っているだけに、みんなすっかりお友達。2台の車に分乗して、南あわじ市の「淡路島牧場」へ。牛の乳搾りやバター・チーズ作りに挑戦。帰りには、淡路市の「花さじき」で色鮮やかな花を楽しみました。
- ・夜ご飯は「ウェルカムパーティー」。子どもたちが大好きなメニューをどっさり用意、たくさん食べて、たくさんおしゃべりしました！

□3月30日(土)

- ・ジョイントチームスタッフと特別スタッフ計6人が合流。子どもたちが楽しみにしていた釣り大会へ出発。場所は浦港。ここで神戸新聞の取材をうける。釣りの結果は、「がんばりましたで賞」。



□3月31日(日)

- ・神戸新聞淡路版に記事掲載。
- ・午前中は3月にリニューアルした「淡路ワールドパークONOKORO」へ。
- ・特別ゲストの藤井一士さんがギターとバイオリンと絵の道具を持って到着。午後からは、キャンプの旗作り。イラストレーターの藤井さんのアドバイスを受けながら、子どもたちはいろんな思いを表現。とっても楽しい旗が完成しました。
- ・その間、大人たちは、ログ近くにある畑に、記念のアーモンドの木を植樹。
- ・そして、このキャンプの楽しみの一つ。チームスタッフのプロのシェフ直伝の餃子作りがスタート。子どもたちは皮作りから挑戦。美味しい餃子が出来ました。
- ・夜はフェアウェルパーティー。藤井さんの演奏と歌で一気に盛り上がったが、極め付きは「キャンプの歌」。子どもたちはすっかりはまってしまいました。そして最後にジョイントチームから歌のプレゼント。「しあわせ運べるように」をスタッフ全員で合唱。どうか「福島」の人々にも、幸せが運ばれますように！



□4月1日(月)

- ・キャンプ最終日。岩屋港から船で明石へ。JRに乗り換えて三宮で下車。阪神・淡路大震災の追悼の集いが行われる東遊園地を訪問。希望の灯や、犠牲者の名前が刻まれた慰霊のモニュメントなどを見学しました。
- ・リムジンバスで三宮から伊丹空港へ。
- ・14時50分、福島へ向けて飛行機は離陸。16時、予定より少し早く福島空港到着。
- ・みんな、けがや病気をすることもなく、4泊5日のキャンプを終了！お疲れ様でした！また、会いましょう！

春休み  
ワクワク  
淡路島発見キャンプ

3月28日(木)~4月1日(月)

会計管理/熊 和子

□収入

キャンプ参加費	大人2人(10,000×2)	20,000円
	子ども4人(5,000×4)	20,000円
		計 40,000円

□支出

・福島・伊丹往復航空券代金(大人2人、子ども4人)	198,200円
・尿検査経費	8,400×6人 50,400円
・参加者交通費(伊丹→淡路島 往復) リムジンバス、JR、淡路ジェノバラインほか利用	14,290円
・イベント関係費	32,011円
淡路島牧場	7,130円
ONOKORO ランド	8,800円
釣り用ライフジャケット他	11,488円
支援者提供車ガソリン代	4,593円
・食費	69,147円
伊丹→淡路往復時外食代(19人分)	16,500円
4泊5日分食材購入	52,647円
・スタッフ、ゲスト宿泊費(民宿 平林荘)	4,500×6人 27,000円
・その他(ゲスト交通費、謝礼ほか)	22,000円
	計 413,048円

収入は40,000円、支出は413,048円。不足の373,048円は、緊急募金から充当させていただきました。

# 春休みワクワク淡路島発見キャンプ会計報告



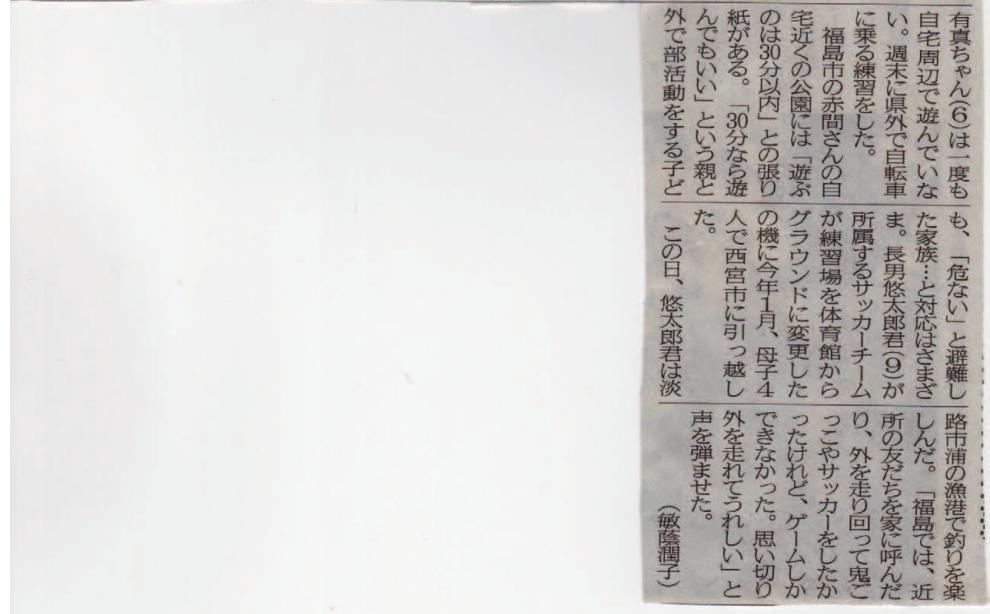
## 外で思い切り遊んで

### 福島の3家族9人招待

淡路市市民団体

有真ちゃん(6)は一度も自宅周辺で遊んでいない。週末に県外で自転車に乗る練習をした。福島市の赤間さんの自宅近くの公園には「遊ぶ紙がある。「30分以内」との張り紙がある。「30分なら遊びなんでもいい」という親どもで外で部活動をする子どもたた。この日、悠太郎君は淡路市浦の漁港で釣りを楽めたけれど、ゲームしかできなかつた。思い切り外を走れてうれしい」と声を弾ませた。  
(敏音潤子)

福島第一原発事故の影響で不自由な生活を送る福島県の子どもたちに外で遊んでもらおうと、阪神間の会社員らでつくる市民団体「福島ハーメルン・プロジェクトチーム」(本部・西宮市)が、3家族9人を招待している。



3月28日(木)~4月1日(月)

# 春のキャンプなどの活動報告

福島ハーメルン・プロジェクト  
ジョイントチーム 代表 木田 拓雄

## はじめに

皆さまには、いつも活動を支えていただき、厚くお礼を申し上げます。ホームページや、募金のお願いなどを通して、すでにお伝えしていることが、福島ハーメルン・プロジェクトジョイントチームでは、今年から3つの新規プロジェクトを立ち上げることにしました。

プロジェクト1 春休みを利用した、春の一時保養キャンプの実施

プロジェクト2 安全な農産物の栽培と福島への提供

プロジェクト3 DNAの損傷を測る尿検査の実施

これらのうち、プロジェクト2は新緑の季節のタマネギ、ニンニク、ジャガイモなどの収穫のあとに、プロジェクト3はクリニックからの検査結果を待って、報告することとし、今回は春の一時保養キャンプについて、ご報告させていただきます。

## キャンプについて(1) 参加者の問題

キャンプは、3月28日～4月1日の4泊5日で実施しました。場所は兵庫県の淡路市野島平林です。ここにある、ジョイントチームメンバー個人のログハウスを使いキャンプを行いました。

参加者は3家族、9名。大人3名、子ども6名です。応募者全員が、昨年豊岡で開いた「夏の一時保養キャンプ」に参加した皆さんでした。また、3家族のうちの1家族（母親と2人の子ども）は、夏のキャンプを経て、西宮市に移住してきたファミリーです。

昨年の夏は、はじめてのキャンプということもあり、参加者を公募しました。その結果10家族、28名が参加する大規模なイベントとなりました。今年は、昨年の参加者にまずキャンプの開催を伝え、申し込みが少なければ、公募に切り替える方法をとりました。変更の理由は以下の通りです。



写真／春休みワクワク淡路島発見キャンプ

- ・キャンプの実施が急遽決まり、募集期間が短かったこと
- ・募集人数が6名（3家族6名か2家族6名）と少なかったこと
- ・キャンプの参加者とのよりよい関わりを追求したこと

最後の理由については説明が必要です。

私たちと被災者との関わりには、2つのタイプがあります。平たい表現を用いれば、私たちは被災者と「広く浅く」関わるのか、それとも「狭く深く」関わるのかということです。結論から言えば、私たちは「狭く深く」関わる道を選びました。それは私たち自身の組織が、メンバー同士「狭く深く」関わる方針で運営されているからだとも言えます。

# 春休み ワクワク 淡路島発見キャンプ

3月28日(木)~4月1日(月)

この選択については、次のような反論が予想されます。

「一部の恵まれた人だけにチャンスを与え、その他の被災者に手を差し伸べないのは公平性に欠けるのではないか?」。確かにその通りです。しかし、被災者の数は多く、私たちは、すべての福島県民に直接関わることはできません。「特定の人か、不特定多数なのか」という問い合わせ前に、私は「因縁」を大事にする道を選びました。私たちが「原因と縁」によって出会えたのであれば、募集対象は広げるのではなく、むしろ限定し、参加した子どもたちの個々の成長に、より長く、深く、具体的に繋がるのが最良の方法だと考えたのです。このような選択の先に夢を広げれば、現在小学生である子どもたちが、高校生、大学生になっても支援を続け、福島ハーメルン・プロジェクトジョイントチームが、彼らに奨学金でも出せればいいな、ということになるでしょうか。

## キャンプについて(2)宿舎の問題

昨夏のキャンプ地は、豊岡市の湯の原温泉オートキャンプ場でした。敷地は広く、あふれるばかりの緑があり、天然温泉をはじめアウトドア施設も充実し、恵まれた条件でキャンプができました。28名という参加人数を考慮すれば、ベストのキャンプ場だったと言えます。また、キャンプ場周辺地区の皆さんから温かい歓迎と支援を受け、地元とのつながりも実感できるキャンプでした。

一方でいくつかの問題点もありました。

- ・宿泊料金が高かったこと
- ・多くの利用者との共同使用であったため、自由に活動できなかったこと
- ・山奥の立地だったので、遊ぶ場所がキャンプ地に限られたこと
- ・他のキャンパーの存在により、一体感がもちにくかったこと

それに対して、春のキャンプは、メンバーが個人として所有している場所だっただため、上記の問題はクリアできました。たとえて言えば、3家族そろって、共通の親戚の家に遊びに来た感じです。自由で風通しのいいキャンプになったと思っています。

当初、ログハウスで寝泊りできる人数は、参加者6名+ジョイントチームメンバー2名と予測していましたが、実際は9名でキャンプ生活を送りました。ベッドのある部屋が5つあるので、3家族にひとつずつ部屋を割り振り、残りの2部屋をメンバーが使うようにしたためです。ここでも「狭く深く」の原理が生きていました。狭い部屋で身を寄せ合って過ごすことによって、それぞれの関係は密接に、また深くなり、それが貴重な一体感を生みました。

庭は30坪ほどしかなく、広いウッドデッキも遊ぶ場所として十分ではありません。それでも子どもたちは、制約をものとせず、狭い庭ではサッカー、バドミントン、野球、鬼ごっこに興じ、ウッドデッキではキャッチボールやフリスビーを楽しみ、家に入ると、かくれんぼなどして目一杯遊びました。また、オートキャンプ場のように施設が充実していないため、外に遊び場を求めるしかなく、淡路市の観光名所を数多く訪問し、キャンプのスローガンである「春休みワクワク淡路島発見キャンプ」を実現する結果になりました。

キャンプ地をログハウスに移したことの利点は、施設や用具、備品を自分たち専用ものとして、自由に使えたことです。また、チームの身の丈(適正規模9名)に合ったキャンプが行え、参加者との距離が縮まり、より親しい関係を構築できました。このような関係を生み出すことも、「狭く深く」の大きなメリットです。

## キャンプについて(3)イベントの問題

「狭く深く」被災者に関わるという方針は、イベントの選択にも影響を与えずにはいませんでした。それを確かめるために、子どもと楽しんだおもなイベントを上げてみます。

- 「たこ焼き＆お好み焼きパーティー」
- 「牛の乳しぼりとバター・チーズ作り体験」
- 「はじめての海釣り体験」
- 「公園の珍しい遊具をつかった遊び体験」
- 「淡路ワールドパークONOKORO」
- 「キャンプの旗作り体験」
- 「皮からの手作りギョウザ体験」
- 「福島支援の野菜畠『ワクワク農園』でのアーモンド記念植樹」

# 春休み ワクワク 淡路島発見キャンプ

3月28日(木)～4月1日(月)

一見思いつきで準備したイベントのようですが、ここにはゆるい目的意識が仕掛けられています。その具体的な成果を確かめる前に、私たちが掲げたキャンプの目的を記しておきます。

## ☆キャンプの目的

目的1 放射能被曝の軽減

目的2 生きる力をつける

目的3 自立と成長のきっかけを作る

目的1はともかくとして、あと2つの目的に、これらのイベントがどのように作用したのか、「キャンプの旗作り」「ギターとバイオリンの音楽イベント」を例に説明してみましょう。

この2つのイベントは、チエリティー絵本「奇跡の木」のイラストレーター藤井一士さんを招いて行いました。「キャンプの旗作り」では、藤井さんの指導を受け、子どもたちは絵を描く楽しさを存分に味わい、思い出に残るすばらしい旗を作り上げました。今後の一時保養キャンプにおいても、旗作りの伝統を継承し、子どもの成長や私たちの活動の歩みが、ひと目でわかるようにしたいと思っています。

それに続く夜の「ギターとバイオリンの音楽イベント」においては、藤井さんに子どもにもわかる「職業観」や「子どものころの夢」を語ってもらいました。そのための小道具として、俵万智さんとコラボレーションした「あいうえお絵本」（発行：アッセントジャパン社）をはじめ、多数の作品、「ニッサン童話と絵本のグランプリ」優秀賞受賞作の原画などを持参してもらい、イラストレーターという仕事をなぜ選んだのか、どうすれば成功できるのかなどを話してもらいました。子どもたちは目を輝かせて話に聞き入り、「自分も絵が得意だから絵を仕事にしたい」との感想をもらす子どもまで現れました。

イラストレーターで活躍する一方、藤井さんはジャンルを問わず、さまざまな音楽活動にも関わっています。西宮交響楽団のバイオリン奏者であったこともあります。カントリーやブルーグラス、フォークソングのバンドにも所属しています。



楽器は何でもこなしますが、ギターとバイオリンは藤井さんがもっとも好きな弦楽器だそうです。

演奏と楽器の説明の合間に、音楽にふれる楽しさや、好きなことを仕事にできる幸せを語ってもらいました。熱心に耳を傾けていた子どもたちは、音楽にも、将来の道を切り拓く可能性があると、思ってくれたかもしれません。

福島の子どもたちは、放射能汚染が広がる中、外遊びは制限され、未来に夢を描けないなど、想像を絶する過酷な日々を送っています。もっとも深刻な事態は、混乱した地域社会・家族の弱体化の影響で、「自立と成長のきっかけを作る」機会を奪われていることだと私たちは思っています。

そのためイベントの企画にあたっては、未知の世界に数多く触れ、全身で何かを経験することで、自分の心に変化を呼び覚ますきっかけとなるよう心を砕きました。そしてそれはまた、「生きる力をつける」とこと同義だと考えました。

イベントに話を戻せば、野菜を栽培する「ワクワク農園」の畑に、今回のキャンプ参加者の「アーモンドの植樹」を準備したのは、大学生協の書籍部に籍を置くジョイントチームのメンバーです。なぜ「アーモンドの木」かと言えば、「あ」からはじまり「ん」まで続く「あいうえお植樹」を、キャンプの恒例にしたいからだそうです。となれば、今年の夏のキャンプは「イチジク」にでもなるのでしょうか。

ここには、大学生協で仕事をするうちに培われた彼の生き様、人生観が結実しています。中華料理のシェフである別のメンバーが、子どもたちに教えてくれた「皮からの手作りギョウザ体験」は、さらに明瞭に、料理の楽しさ、味付けの奥深さ、創作する喜びを伝えるイベントになりました。

# 春休み ワクワク 淡路島発見キャンプ

3月28日(木)~4月1日(月)

私たちは今後とも、このような体験型のイベントを用意し、一時保養キャンプを続けようと思います。子どもたちが味わう不条理に、あえてプラスの意味を見出すなら、震災と津波、さらに加わった放射能の恐怖を「せっかく与えられた試練」ととらえ、それを大事に生き抜くしかないからです。

彼らはつらい震災体験をし、放射能被曝に怯える代償として、縁のない兵庫県にやってきて、キャンプに参加し、震災がなければ出会うことのなかった私たちと関係を結び、食事を楽しみ、ゲームや遊びに興じられたのです。私たちにできることは、彼らの試練に見合うだけの心躍る体験を準備し、心の成長を支え、未来に希望がもてるよう励まし、さらに大きな人間となり、太い人生が歩めるよう福島の子どもたちを応援することだと思っています。これが私たちの考えるイベントです。

## キャンプについて(4) 総括と展望

被災者との関わりを「広く浅く」するか「狭く深く」するかの選択は、私たちと同じような他の組織のジレンマでもあります。また、「狭く深く」という方針が決まったからといって、それに安住するわけにはいきません。どのような組織も、拡大の可能性を閉ざせば、マンネリ化し、弱体化します。そのため私たちは、「拡大しながら内部の充実も図る」道を進むしかありません。今後のキャンプの募集方法に話を戻せば、これまでの参加者を優先させつつ、新しく加わる人への呼びかけも同時に進行。これが将来の展望です。

「狭く深く」は、「適正規模」でキャンプを行う必要性に結びついています。たとえば、昨夏のキャンプの総支出は200数十万円、今春の支出は約41万円。ジョイントチームの身の丈にあったキャンプを目指すなら、昨夏のような規模のイベントはもうできません。つまり、今後のキャンプの会場は、春夏問わず淡路島のログハウスを使う方針にならざるを得ません。

そうなれば、地元淡路への働きかけという、あたらな課題が浮かび上がります。今回時間などの関係で、わずかしか実現できなかった地域への密着をさらに強め、淡路島の人的、資金的、物的支援を、私たちは今後求めなければならないでしょう。

これらの展望をまとめれば以下のようになります。

- ・春夏のキャンプの募集はこれまでの参加者を中心にしたものになる
- ・毎回1~2名は新規の参加者を募る
- ・今後も「自立と成長のきっかけ」を作るイベントを行う
- ・しばらくは会場を淡路島のログハウスに限定する
- ・淡路島の行政、個人、企業などに支援要請を徹底的に行う

今回できなかったことで、今後行うべきかどうかという課題が1つあります。子どもたちに、キャンプの日々の出来事を毎日書かせることです。今春のキャンプでは、子どもたちの遊ぶ熱意に負け見事に挫折しました。初日に失敗し、2日目もだめ、3日目には、もう福島での宿題にするしかないと諦めました。

この記録集には、子どもたちの記録も掲載されています。それをご覧いただき、遊びに向かうエネルギーを削ぐことなく、自分の言動を言語化するにはどのような方法をとればいいか、皆さまにお教えいただきたいと思います。

春休みのキャンプは、皆さまの募金に助けられ実施できました。また、参加した6名の子ども全員が、尿検査とエコーによる甲状腺検査を受診し、4月17日現在、その結果を待っているところです。皆さまの温かいご支援に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。これからも、どうかよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、以下の団体の皆さんに、ご協力をいただいたことを報告させていただきます。

- 後援： 株式会社ラジオ関西  
取材： 神戸新聞  
タマゴ提供： 北坂養鶏場（淡路市）  
野菜提供： パソナ農援隊 淡路島  
野菜などを提供いただいた皆さま、ご協力ありがとうございました。

3月28日(木)~4月1日(月)



「春の淡路島ワクワク発見キャンプ」に私が参加した3/30(土)・31(日)の子どもたちのレポートです。

3月30日は朝から生まれて初めての海釣りです！

この時期は魚が釣れにくい状況ですが、何人かの子は小さな魚が釣れて目を輝かせて喜び、釣れない子は悔しがって「釣れるまで帰らない」と不運を嘆きました。子どもみんなに、釣らせてあげれなかったのが本当に心残りでした。

昼食は宿泊先のログハウスのテラスで食べました。暖かい陽気が気持ちよく、しかもメニューは子どもの大好物カレーライス。格別おいしいランチに、子どもたちも食が進んだようです。

午後からはログハウスの近くにある県立淡路島公園へ行き、サッカー、キャッチボール、バドミントン、水上アスレチック、滑り台、砂あそび、など各自が好きなことをして楽しみました。だれもが笑顔を浮かべ、夢中で遊んでいたのが印象的でした。福島では家でゲームばかりしている子も、実は外遊びに飢えているんだな、本当はゲームなんかより外で遊びたいんだなと感じ、複雑な気分になりました。わずかな時間を見つけては、ログハウスの庭で遊びをむさぼっている子どもの姿に、私は胸が熱くなりました。

夕食はテラスでの大バーベキュー大会。みんな一日中遊びまわってお腹が減ったのか、がっついて美味しいにお肉にかぶりつく姿が可愛かったです。

福島ハーメルン・プロジェクト  
ジョイントチーム 榊原 貴司

- 翌日の3月31日は、朝から淡路島の有名な遊園地、「淡路ワールドパークON OKORO」へ！立体迷路、クラフト体験、芝滑り、ゴーカート、ストラックアウトなどを楽しみ、疲れ知らずの体力で元気いっぱい。子どもたちは、どんなことをして楽しんでいて、遊びの天才だなあと感心させられっぱなしでした。
- 昼食は昨日に続いて、ログハウスのテラスでのおいしいおにぎり弁当。腹ごしらえをしてからキャンプの記念にみんなで旗作りをしたのです。自由に絵具で思い思いの絵を描き、立派な旗が完成しました。子どもたちの絵はけっして上手くはないけれど、見ているだけで笑みがこぼれてしまう不思議な魅力があります。個々の性格が絵に表れているのが面白く、みんなが名画伯でした。
- この日は、まだまだイベントが目白押しで、次は皮から作る餃子作りに挑戦！みんな初めての経験だったのか真剣な眼差しで説明を聞き、イベント続きにもかかわらず、疲れを感じさせずに作業に取り組んでいました。自分で作った餃子を食べて「おいしい！」と満足顔。こちらも幸せになりました。
- そしていよいよお待ちかねの、フェアウェルパーティー開催！ここでジョイントチームの大西さんが突然、サプライズイベントを始めたので、スタッフ一同が真っ先にびっくり！なんと子どもたちに、人気のアニメ「ワンピースのニアカード」をプレゼントしてくれたのです。当然みんな大喜び、大盛り上がりで無邪気に喜ぶ子ども達の顔が忘れられません。季節はずれのサンタクロースが、福島の子どもたちのためにログハウスに来てくれたかのようでした。



春休み  
ワクワク  
淡路島発見キャンプ

3月28日(木)～4月1日(月)



サプライズの興奮が一段落したとき、一人の男の子がやって来て、あれだけ貰って喜んでいたプレゼントを私に差し出し「これをネットで売って。卖れたらまたキャンプをするのに使って」と言ってくれるではありませんか。私は涙をこらえるのに必死で、一生忘れることのできない素敵なお土産を受け取りました。

賑やかなパーティは進み、ジョイントチームスペシャルメンバーの藤井さんによるギター、バイオリンを使った子どもたちと歌うコンサート。元気な声で大合唱して、特に「キャンプだホイ」というフレーズの歌がみんな気に入ったらしく、何度も繰り返し歌っては喜んでいた姿が微笑ましかったです。「キャンプだホイ」を「（キャンプから）帰りたくない」と替え歌にして歌い始めたときは、私たちも嬉しくて感動してしまいました。

最後に神戸の震災ソング「しあわせ運べるように」を、スタッフ一同で合唱しました。私たちの子どもたちへのサプライズプレゼントだったのです。歌は下手くそながらも、皆で思いを込めて歌ったら子ども達は真剣に聞いてくれ、自然とスタッフのまわりに集まってきてくれ、子どもたちとの大合唱となりました。

いよいよお別れの時が・・・。代表の木田さんが「5人以上の人とハグをしてお別れしよう！」と呼びかけました。子どもたちが私のところへ来て、笑顔で「またキャンプしてね」と言ってハグしてくれました。その笑顔を見た時、このキャンプは成功したんだ、子どもたちを楽しませることができたんだと、うれしくなりました。でもそれ以上に、子どもたちから、元気とパワーを貰ったのは、私たちの方だと気づきました。そして、また次回、その次も、次の次も、キャンプを開催できるよう頑張ねばと、私は心に誓いました！

子どもたちの笑顔を見るために！！

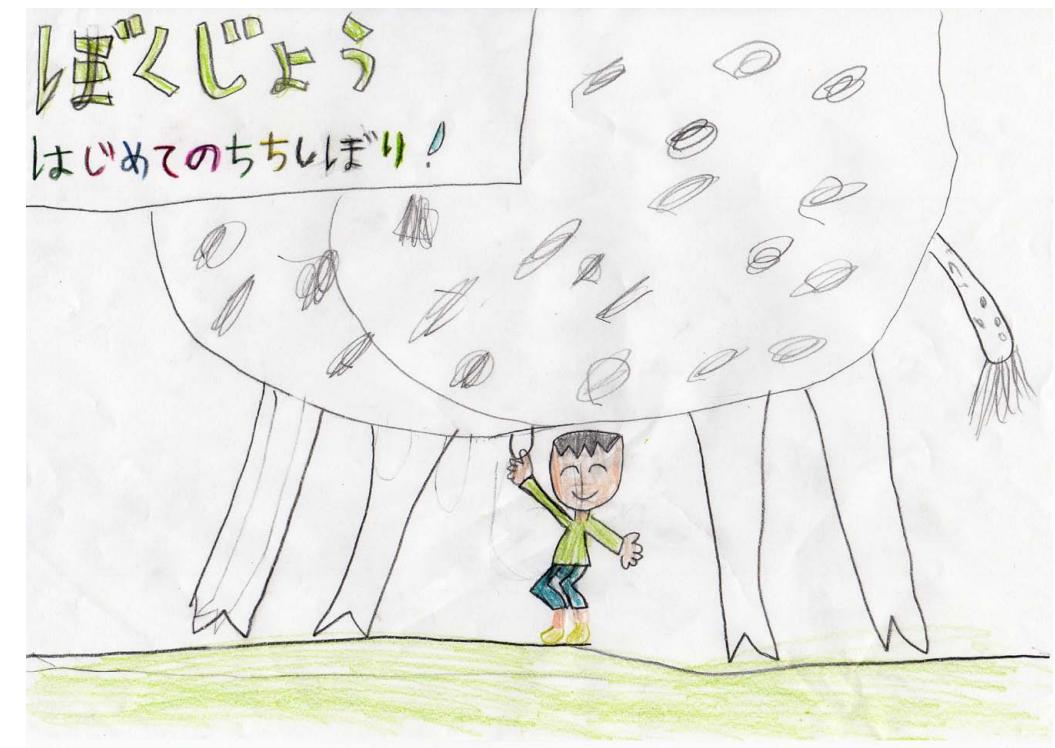
ありがとう子どもたち、いつまでも共に戦っていこうな！！！！（タカちゃん）

春休み  
ワクワク  
淡路島発見キャンプ

3月28日(木)~4月1日(月)



子どもたちキャンプリポート 絵/赤間 悠太郎



春休み  
ワクワク  
淡路島発見キャンプ

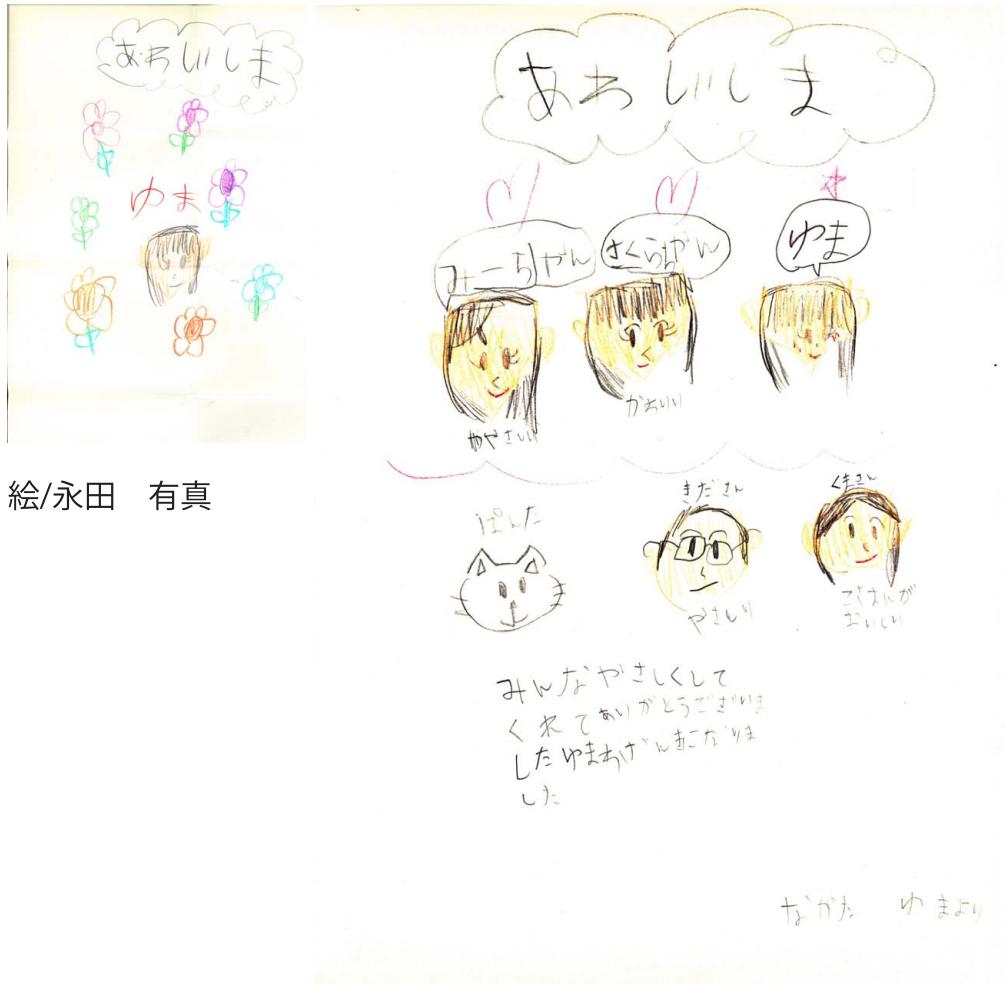
3月28日(木)~4月1日(月)



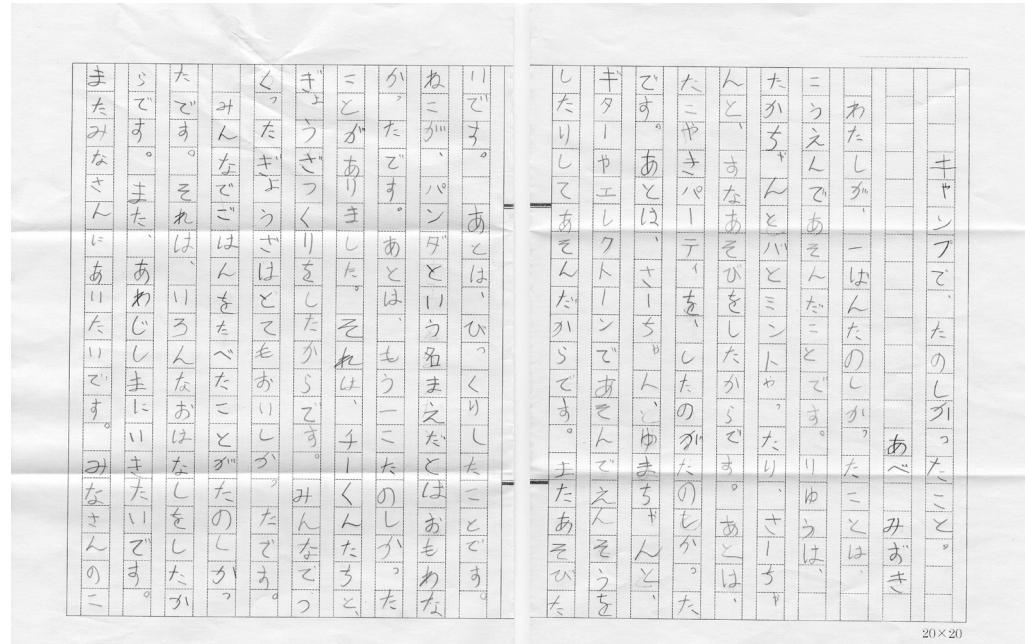
子どもたちキャンプリポート 絵/赤間 紗桜

3月28日(木)~4月1日(月)

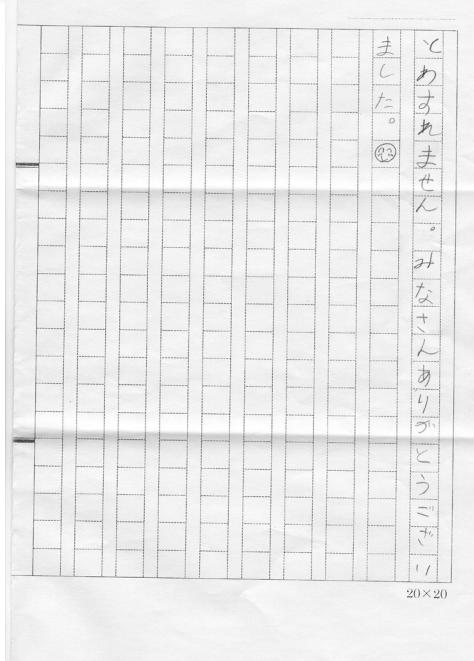
# 子どもたちキャンプリポート



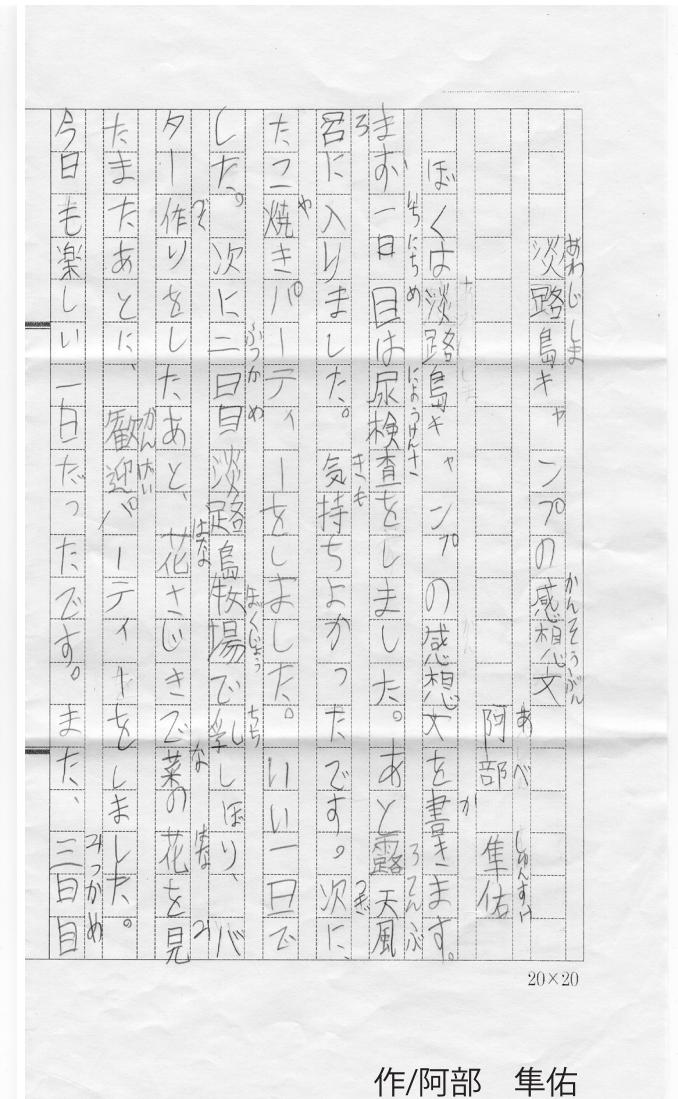
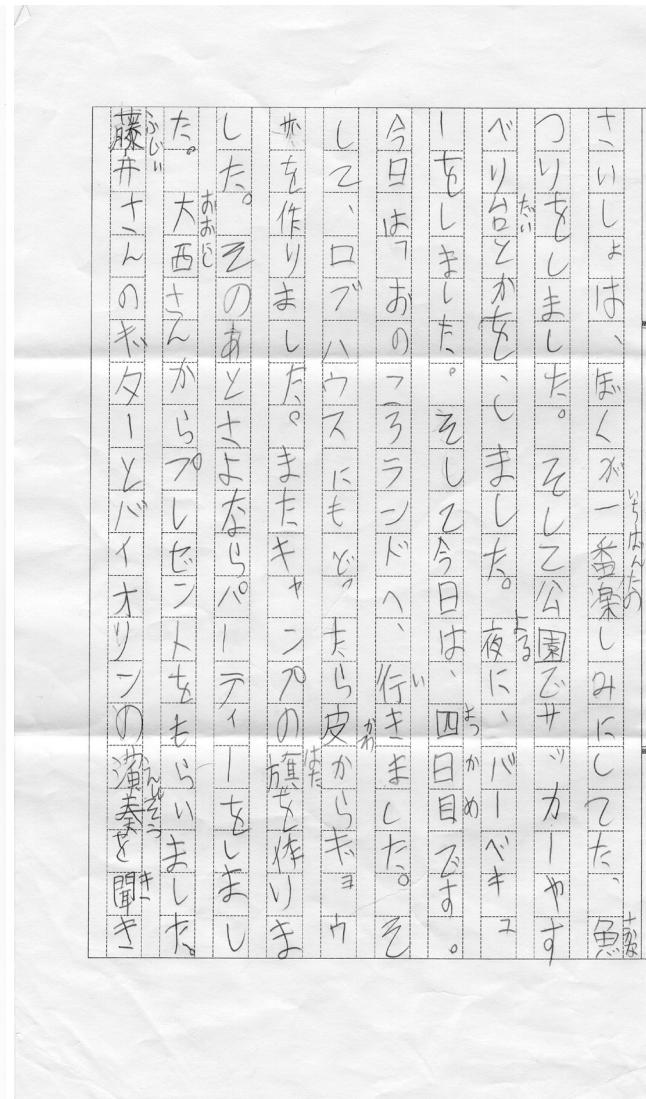
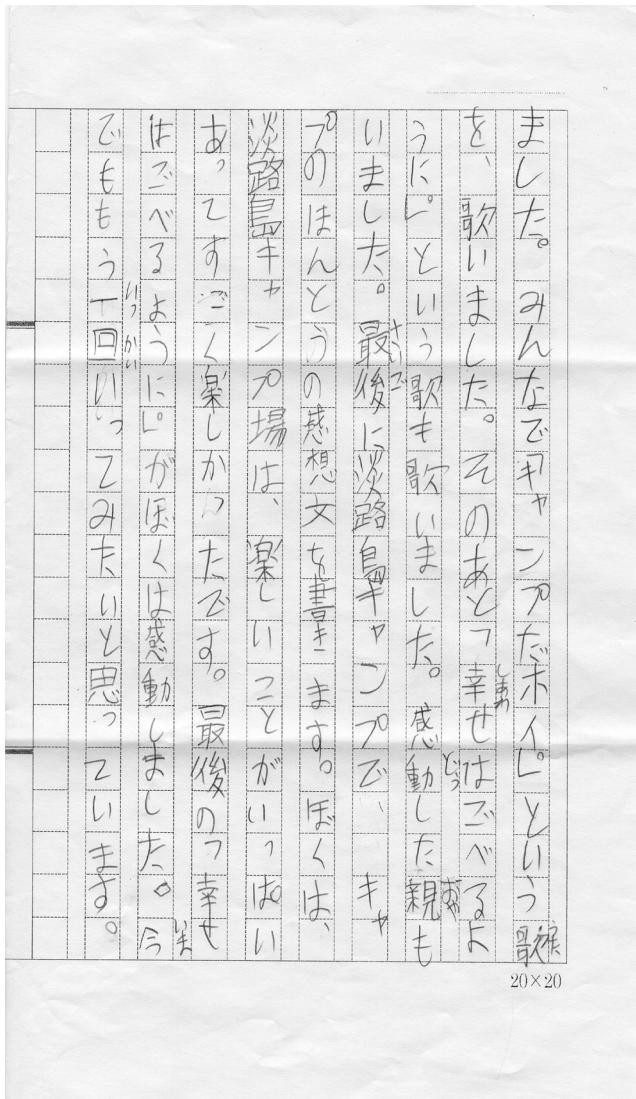
繪/永田 有真



作/阿部 瑞姫



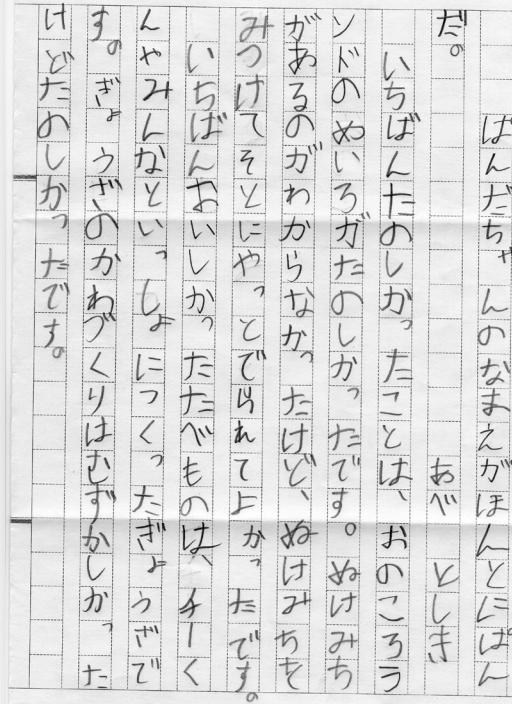
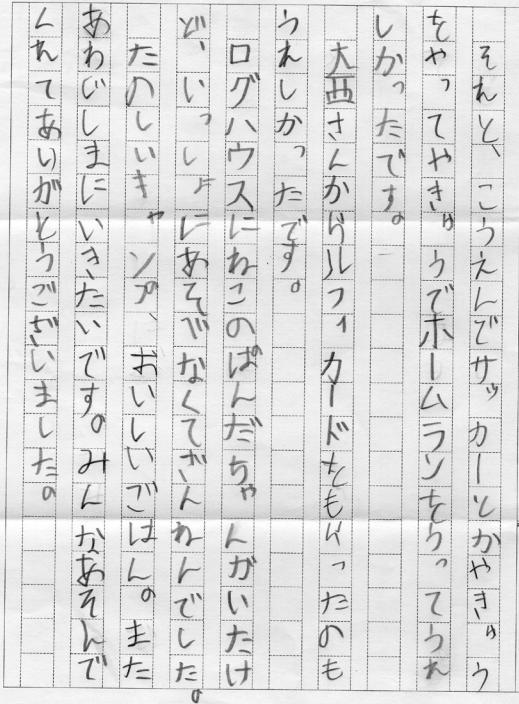
3月28日(木)~4月1日(月)



作/阿部 隼佑

3月28日(木)~4月1日(月)

## 子どもたちキャンプリポート



作/阿部 峻希

福島ハーメルン・プロジェクトジョイントチームの首様へ  
感想文遅くなりまして 大変申訳ございません。  
淡路島での保養キャンプでは首様に大変お世話になりました。  
ありがとうございました。  
子供たちへ元気に生き生きとした笑顔をたくさん見せて、  
とても嬉しい思いました。また機会がありましたら是非  
参加したいと思います。  
郡山もやと 暖かい日が続くようになります。  
4月末より子供たち(草佑、峻希)が地元より少し離れた  
地域(緑豊か少ないところ)でサッカーのストリートボール始めました。  
友達が誰一人いてないところでもやらせて良いかどうか悩み  
ましたが、それでも緑豊かなところでもいい気持ちから  
参加させて貰う。1・2回目の練習ではなかなかまわらなかった  
2人も、先週の練習では何人かの友達もでき、樂しそうにボールを  
蹴る姿を見て少しよかったです。  
東電の問題はいつ終まるのか、子供たちの身体にはいつどんな影響  
がでてくるのか、何とかならない状況ですか。子供たちが元気で  
笑顔でいるかる居場所をたくさん見つけてあげたいと思います。  
首様も体に気をつけでお邊り下さい。

阿部清志

春休み  
ワクワク  
淡路島発見キャンプ

3月28日(木)~4月1日(月)

支援してくださった皆様へ

今回も参加出来て、本当にうれしくもいました。  
大変お世話になりました。  
東日本大震災から2年が経ちました。  
福島の状態は悪くなぬ一方です。先がわかりません。  
でも、前を見よしかないです。  
暗闇の中を2年歩き、まだ光が見えません…

昨年、保養に初めて兵庫県に行き、6歳の娘が  
「葉っぱに毒はない?」「いっぽい空氣すいい?」  
「マスクはここではいらぬの?」「なんで福島は放射能あるの?」  
「背が痛くて、涙がとまりませんでした。」  
普通の事が普通じゃなく、普通じゃない事が普通になってしまいまして。

福島の子供達 夏なのに白い肌の子がタリんです。  
お外遊び出来ないから…

こんなでいいのかな…ダメだよな…

兵庫から福島に帰り、色々考え、今年から米沢(山形県)  
に避難することにしました。

NO2

保養に参加させて頂き、普通の事をやらせてないと見いだし  
私達の命を助けてくれてありがとうございます。  
その言葉しかなくてません。

兵庫の方、全国の皆さんに沢山の絵を頂き、  
この愛は一生忘れません。  
そして、また福島から愛を送る事が出来るよう  
私達もつなげていきたいと思います。  
本当にありがとうございました。

永田由記子



福島ハーメルン・プロジェクト  
ジョイントチーム

発行・編集／福島ハーメルン・プロジェクト ジョイントチーム  
500円（カンパ含む）